

DエリアタンクSr処理水の ALPS処理継続について

2021年 3月16日

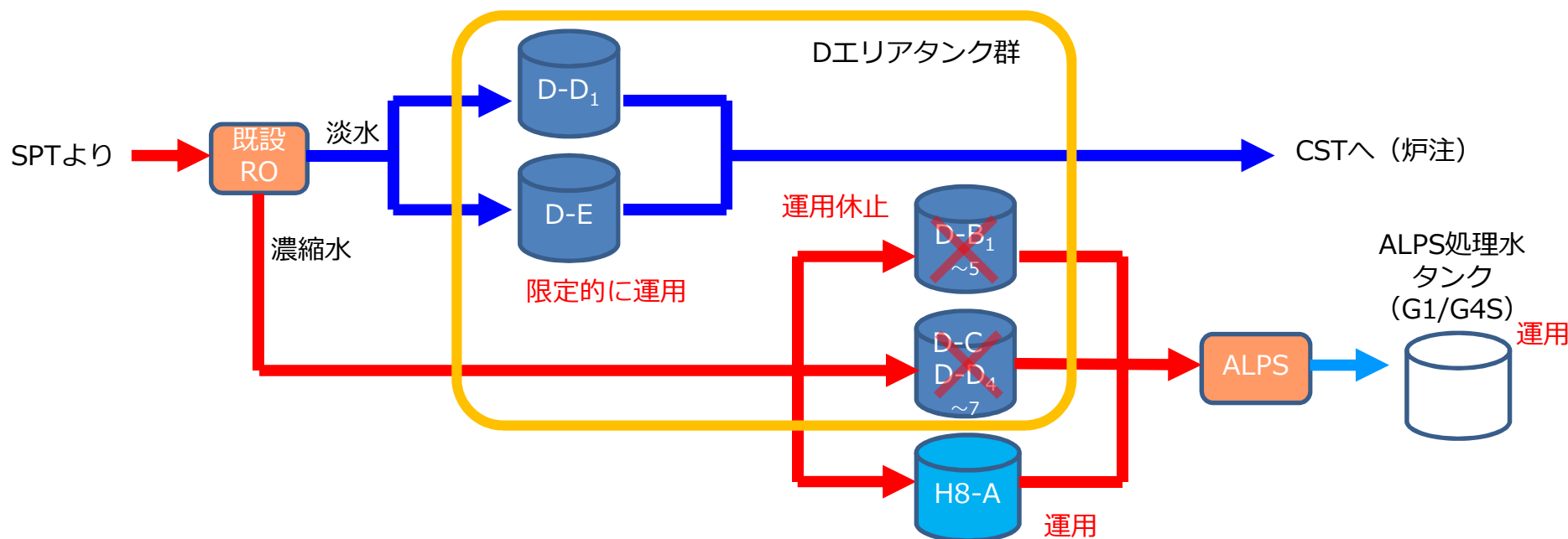
TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

1. 中低濃度タンクの応急処置状況について（Dエリア）

- RO処理水（淡水）タンク（D-D1,E群）
（役割）炉注水用のRO処理水（淡水）を貯留
（今後の運転）同様な機能を持つタンク群がなく、**限定的に当該エリアにて運用を継続***
- Sr処理水（濃縮水）タンク（D-B1~5,C,D4~7群）
（役割）ALPSで処理する前のSr処理水を貯留
（今後の運転）同様な機能を持つH8-A群タンクにて運用
連結弁を「閉」運用
- 濃縮廃液タンク（D-A,B6~8群）
（役割）震災直後の濃縮塩水を蒸発濃縮装置で分離した濃縮廃液を貯留
（今後の運転）地震前から連結弁を「閉」運用

※影響がないと確認できたタンク（D-D2除く）のみを限定的に活用し、
堰内容量（2,140m3）以内の連結で運用



【見通しと課題】

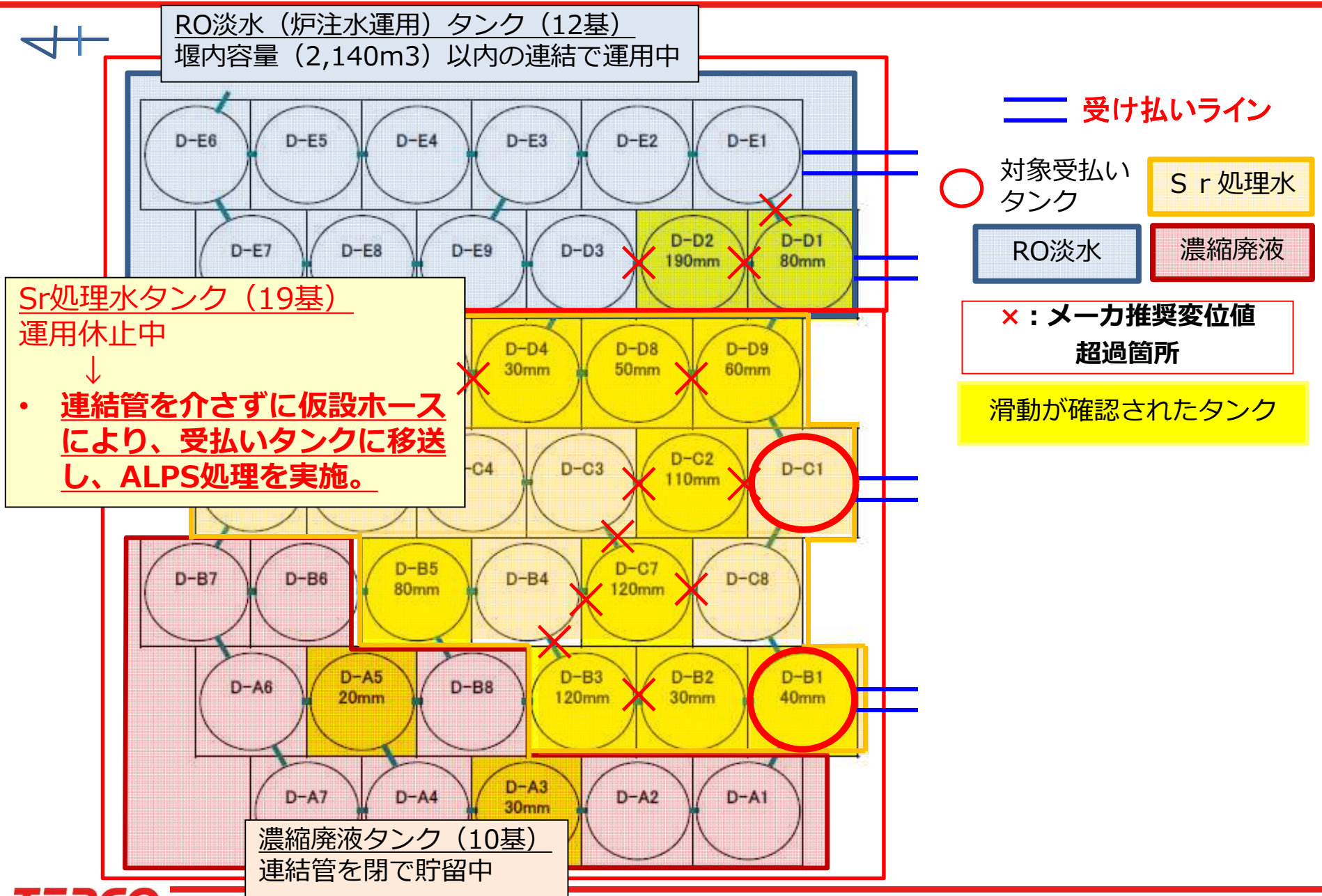
- 2021年3月末には、H8-AエリアのSr処理水の処理が完了する見通し。それ以降も、同エリアでは日々発生するSr処理水を受入れ、順次ALPS処理を実施する。
- 一方、運用を休止しているDエリアのSr処理水タンク内のSr処理水（約1.7万m³）についても、ALPS処理を進める必要がある。

【2021/3/11時点のSr処理水（濃縮水）貯蔵量】
（H8-A：約3,700m³／約5,300m³）
（D：約17,100m³／約19,300m³）

【対策】

- DエリアのSr処理水タンクのうち、受払いタンク2基（D-B1,D-C1）に貯留しているSr処理水のALPS処理を実施（受払いタンクに接続しているPE管は可撓性が大きい）。
- その後、連結弁を「閉」のまま、連結管を介さずに、仮設ホースによりタンク間を移送出来る設備を構築し、後段タンクのSr処理水を受払いタンクに移送し、ALPS処理を実施。

2. DエリアタンクのSr処理水のALPS処理の継続 (2 / 3)



2. DエリアタンクのSr処理水のALPS処理の継続（3 / 3）

- DエリアのSr処理水タンク19基において、受払タンク以外の17基に仮設ポンプを設置し、連結管を介さずに仮設ホースによりタンク間を移送出来る設備構成とする。

